

日本の伝統技術と金属

千年の釘

鍛冶

しらたかゆきのり
白鷹幸伯の仕事

葉師寺再建で古代の和釘に挑んだ名工の功績

日本の 伝統技術 と金属

暮らし × 用の美 × 金属

私たちの身の回りには、様々な“モノ”が存在しています。
多くは大量生産され、消費されていきます。

一方で、古くからの手仕事によって生み出されてきた
“モノ”が今も生き続けています。

時代の流れの中で衰退しつつあるものの、

そこにはものづくりの原点があり、受け継がれてきた
技術、歴史と伝統、想いがこめられています。そして長い
年月を経て古来の美意識が投影され、磨かれてきたこと
で、独特の美しさをにじませるようになりました。

その中から、特に、鉄や銅などの金属を素材にした伝統
工芸の世界をご紹介します。

伝統を支えてきた人々の知恵と情熱、さらに、素材の
魅力を引き出す見事な技から、いつの時代も変わらない
「ものづくりの本質」を感じていただけたらと思います。

鍛冶

白鷹幸伯

しらたかゆきのり

写真 能田昭男



白鷹幸伯

昭和10(1935)年、愛媛県松山市生まれ。9歳の頃から父の向う槌を打ち、農具、荷馬車の輪鉄、建築金具などの製法を覚える。高校卒業後、土佐鍛冶の兄から山林用刃物、鎌、包丁の製法を習う。昭和36年、上京。日本橋の木屋刃物店に入社。昭和46年、西岡常一棟梁と出会う。翌年、木屋を退社し、郷里に帰って鍛冶に専念。西岡棟梁の元、薬師寺西塔、中門、回廊、大講堂再建のための白鳳型和釘7千本の鍛造を行う。これが和釘作りの原点となる。

昭和59年、竹中大工道具館より依頼を受け古代大工道具を復元。

平成10年、国宝室生寺復旧工事用巻頭釘作成。平成14年、大洲城再建用和釘、錦帯橋再建用和釘、鏝(かすがい)作成。平成16年、財団法人文化財建造物保存協会より、平城宮大極殿の釘の注文を受ける。その後も松山城、唐招提寺国宝仏像用の釘などを次々に作成。「吉川英治文化賞」など受賞歴多数。鉄の歴史に通じる、現代の鍛冶職人。

写真 能田昭男

昭和16(1941)年、愛媛県松山市生まれ。現職は三井ホーム・四国中央ホーム(株)検査室長。世界98ヵ国が加盟する国際写真組織「国際芸術写真連盟:FLAP」から写真芸術への多大な貢献者に授与される終身称号「ARTISTE FLAP」の保持者。国際公募展・交流展での入賞・入選歴多数。日本国際写真連盟副会長、松山国際写真集団会長など歴任。

幹事を務める、白鷹氏を支援するグループ「四十雀(しじゅうから)会」では、平成23年、白鷹氏の軌跡を描いた写真集「匠の日々」を出版。



薬師寺再建、 「千年の釘」を鍛える

白鷹氏が広くその存在を知られるようになったのは、1970年代の薬師寺西塔の再建に端を発します。法隆寺や薬師寺の再建に携わり、最後の宮大工と称された西岡常一棟梁から、できるかぎり創建時に近い材料と工法で「千年の耐久性を保つ釘」を作ることをご依頼されました。

図面や法隆寺の釘などを研究した白鷹氏は、純度の高い鉄と高度な鍛造技術が必要と結論づけ、根気と努力、経験と実力を結晶させて、試行錯誤の末に、千年の耐久性を持つ白鳳型和釘としてその復元に成功しました。

以降、20年余にわたり、中門、廻廊、大講堂などのために約2万7千本の和釘を鍛造したのです。

飛鳥の釘・白鳳の釘・天平の釘

古代の釘は、一本一本鍛造された軸の四角い和釘で、構造材を支える大きく丈夫なものでした。ただ細く尖っているのではなく、途中にわずかなくびれやふくらみがあります。時代による建築法の違いを考察し、再現したものを展示しています。

節をよけて曲がる釘

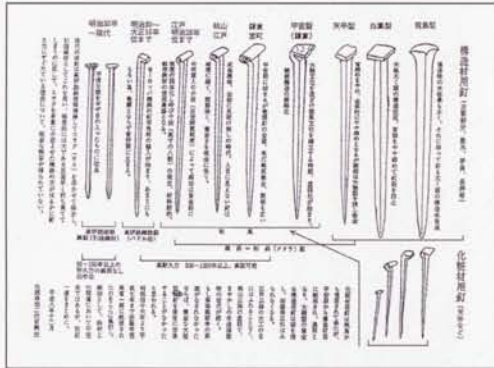
硬い釘は木の繊維や節を痛めます。古代の釘は、適度に柔らかく、打ち込んだときに、木目に馴染みながら木と一体化して建造物を長く持たせました。



竹中大工道具館の協力による実験結果 2011年



歴史的な建築物に使われた、様々なサイズや形の釘。表面にはハンマーで叩いた痕跡が鮮やかに残る。



日本古来の年代別和釘の資料編集 1996年 白鷹幸伯

日本一の巨大和釘

2010年、平城宮の跡地に大極殿正殿が復元されました。大屋根を支えるのは、白鷹氏の手によるダボ付き大釘22本、柱頭釘44本です。最大のもので二尺四寸(約70cm)、重さは4キロに達します。一日にわずか数本しか鍛造できない、過酷な仕事でした。

全長70cmを超える
平城宮大極殿正殿の釘。
実物は右の写真の約2倍の大きさ。



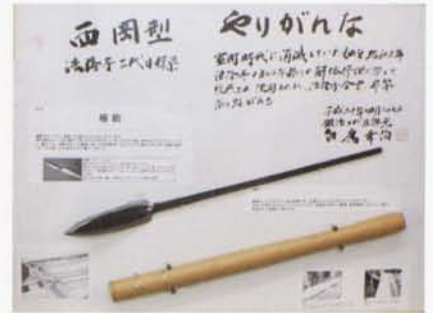
和釘鍛造の技

白鷹氏の工房には、ベルトハンマーのリズミカルな力強い音が響いています。真っ赤に焼けた鉄の状態を把握して、短時間で形を整えるのが職人の経験と勘です。展示会場では、鍛造工程を解説パネルと動画でご覧ください。



古代工具の復元

元々興味があった古代大工道具について、西岡常一棟梁からさまざまな訓示を受けました。わずかな手がかりから復元したヤリガンナやナマゾリなどは実際の再建作業に使用されました。研究・復元成果の多くは、現在、白鷹資料館および竹中大工道具館に展示されています。



「僕はやっぱり鉄に惚れているんです。」



さまざまな功績

古代建築の復元・修復だけでなく、錦帯橋の架替、愛媛県武道館、明治神宮外拝殿補強工事、国宝千手観音立像修復など多岐にわたる仕事を紹介します。



- 左上 平成14年 大洲城復元用皆折釘を作成。平成21年、完成した大洲城前で。
- 右上 平成14年 錦帯橋再建用和釘、鍔(すがい)作成。左隣は息子の興光氏。
- 右下 平成15年 愛媛県武道館建築金物作成。建築中の現場にて。

「千年先の鍛冶職人が釘を見て
こいつもやりよるわいと
思ってくれたら。」

より深く知りたい方のために

■参考図書

「鉄、千年のいのち」 白鷹幸伯
草思社 1997年

光村図書出版
小学校五年国語教科書
「千年の釘にいどむ」 内藤誠吾

「写真集 匠の日々」
四十雀会 2011年



■竹中大工道具館 <http://www.dougukan.jp>
神戸市中央区中山手通 4-18-25

竹中工務店が所蔵する大工道具の博物館。道具の歴史と、展示品の解説など。「千年の釘にいどむ」他、大工道具について学校向けの出張授業を行っている。

■愛媛いいもの図鑑 <http://www.pref.ehime.jp/iimono/>
愛媛県内の「食」や「伝統工芸品」などについて、県内在住のスタッフが取材を行い、その産品にまつわるエピソードなどを交えて紹介しているサイト。和釘の鍛造の様子を動画で見ることができます。



和釘は「愛媛県指定伝統的特産品」であり、白鷹氏は平成14年に「えひめ伝統工芸士」に認定されています。愛媛県松山市堀江町で生まれた白鷹氏は、現在も同所の工房で製作を行っています。車で1時間ほどの西条市には鍛造作品や鐵資料を展示した白鷹資料館があり、同市内には日新製鋼の東予製造所があります。



白鷹資料館
西条市周布 1926 栗田孝一
TEL 0898-68-7037 閉館日特になし、要予約

日新製鋼株式会社 東予製造所
日新製鋼の最新鋭技術を結集した東予製造所は、国内トップレベルの生産性を誇る、表面処理鋼板の製造拠点です。また、資源・エネルギーのリサイクル・有効活用を意識した、さまざまな環境対応システムを有する「資源循環型」工場として、製造活動を続けています。

日新製鋼ギャラリーのご案内

日新製鋼ギャラリーは、「鉄」と「人」をつなぐコミュニケーション・スペースとしてさまざまな展示を実施しています。みなさまに「鉄の魅力」を気軽に楽しんでいただくとともに、丸の内地区への文化的な貢献を目指しています。

最新の展示内容および過去の展示の一覧が
弊社ホームページよりご覧いただけます。
<http://www.nisshin-steel.co.jp>

「千年の釘一鍛冶^{しらかゆきのり}白鷹幸伯の仕事」

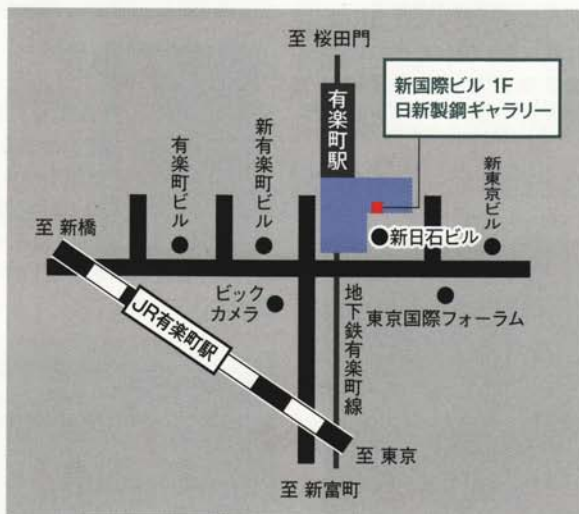
開催期間 2012年7月23日(月)～10月19日(金)

※閉会日は予定

月曜日～金曜日(祝祭日は除く)

午前9時～午後6時 ※入場は無料です。

所在地 東京都千代田区丸の内3-4-1(新国際ビル1F)
JR有楽町より徒歩3分



日新製鋼株式会社

〒100-8366 東京都千代田区丸の内 3-4-1 (新国際ビル)

TEL(03)3216-5566 FAX(03)3216-5546

<http://www.nisshin-steel.co.jp>